

# 「泉北ほっとけないネットワーク」プロジェクト

～地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを展開する～

## (1) プロジェクトの内容……社会的背景、コンセプト、具体的内容、特徴 等

### □社会的背景

わが国において高度経済成長期に開発されたニュータウンでは少子高齢化・人口減少、住宅施設・インフラの老朽化等、様々な課題を抱えている。45年前に開発された泉北ニュータウン(図1, 2)も同様の課題を抱えながらも、都市圏と郊外とのエッジ(境界)に位置する立地特性を踏まえて、子どもから高齢者まで多世代が豊かな自然や農園の中で健康に暮らす「泉北スタイル」の実現を独自の目標\*1にかかげている。加えて地域の「ほっとけない」精神の下で生まれたボランティア組織が多く(100以上)活動していることも特徴で、これらの地域特性を生かした具体的な再生の仕組みが求められている。

\*1/泉北ニュータウン再生指針<[http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/senbokusaisei/saiseishishin/saiseishishin\\_html/torikumi.html](http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/senbokusaisei/saiseishishin/saiseishishin_html/torikumi.html)>

### □コンセプト

「泉北ほっとけないネットワーク」プロジェクトとは、現状では十分に活用されていない空き家・空き店舗を地域の「空き」としてとらえ、その「空き」を地域で共有し、そこを拠点に支え合うための様々なコミュニティサービスを展開するモデル事業である。本事業は国・府・市のモデル事業指定\*2を契機とした、地元自治会・事業者、国・府・市、大学等の民産官学の密接な連携の取り組みであり、地域全体を巻き込んだまちづくり活動として今後のニュータウン再生のモデルになるといえる。

\*2/国土交通省高齢者等居住安定化推進事業、堺市地域共生ステーション推進モデル事業、大阪府新しい公共の場づくりのためのモデル事業などのモデル事業指定を受けている。

### □具体的内容

2010年9月に槇塚台地区(人口約7000人、高齢化率約30%) (図3)において、住民・NPO・大学・行政が相互連携する組織「泉北ほっとけないネットワーク推進協議会」を組織し、空き住戸と空き店舗を福祉サービス拠点に転用し、高齢者・障害者・子どもを含む地域住民生活を包括的支援するための安心居住・食健康のコミュニティサービスを提供している。(図4)

#### <拠点整備>

- ① 地域レストラン(近隣C.空き店舗、2店舗・計230㎡)
- ② まちかどステーション(近隣C.空き店舗、1店舗・58㎡)
- ③ 生活支援住宅(府営住宅空き住戸、7住戸・計300㎡)
- ④ シェアハウス(戸建住宅、1住戸・134㎡、本年11月完成)

#### <コミュニティサービス展開>

- ① 見守りをかねた配食サービス
- ② 昼食、居酒屋の提供(地域レストラン)
- ③ 各種サークル支援(地域レストラン2階、生活支援住宅)
- ④ 食健康相談、健康リハビリ支援(「」、「」)
- ⑤ ショートステイ(生活支援住宅)・・・など



## (2) プロジェクトの評価

### □目的の達成度

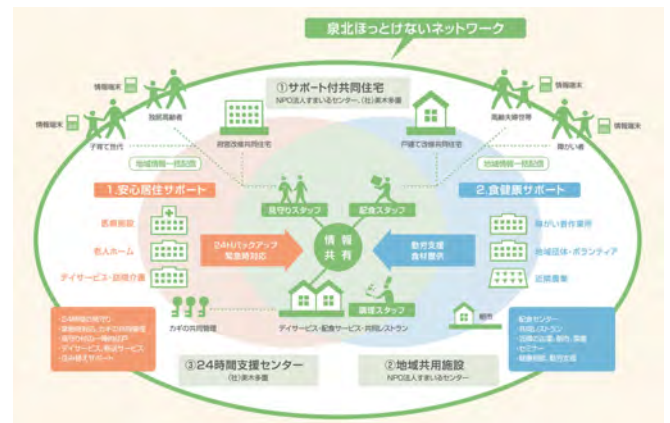
物的な拠点の改修整備はほぼ終了し、各種コミュニティサービスの継続と充実が課題であり、地域内外の既存組織との連携で切れ目のないサービス展開が望まれている。

### □社会的な影響・効果

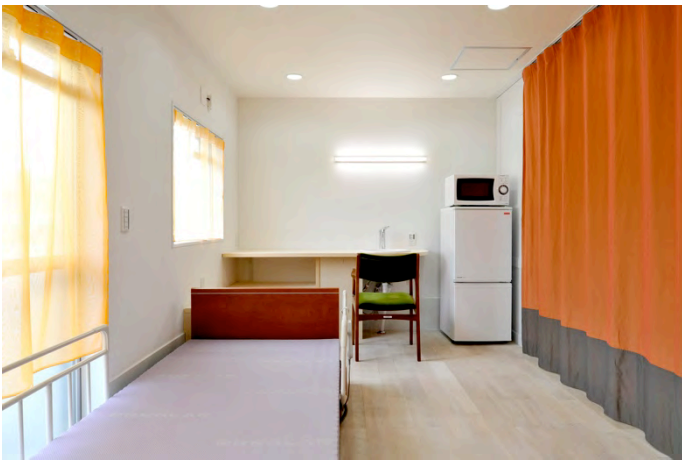
ハードとソフトをセットにした地域再生のモデルを提示できた。地域資源の活用において、地域NPOが空き家などを借り受け「地域共有」する事業手法の有効性を示すとともに、結果として空き住戸・空き店舗の解消と、賑わい・ふれあい機会・地域雇用の場の創出など、地域の安心居住実現と活性化に大きく貢献した。

### □優れている点

従来の行政や事業者主体の事業でなく、地域住民・NPO主体のコミュニティ事業を大学がコーディネートすることで、各種のモデル事業指定を受けながら、制度に縛られない地域分散型のコミュニティサービス事業を実践したことは、今後のニュータウン再生のモデルになる。



□地域の「空き」を生かしたコミュニティサービス拠点



左上から：高齢者支援住宅「光の散歩道」、「まきつかハウス」、「やどりぎ」、「榎庵」

右上から：高齢者支援住宅共用室「ゆおり」、府営住宅、緑道、拠点展開図、地域レストラン「まっきー」厨房、食堂